



請願書

足尾銅山鑛毒加害激甚ノ土地人民ハ多  
年間憲法ノ保護ヲ受ル能ハスニテ被害ノ  
慘憺ニ陥リタル既往今来ノ始末ニ付



請願書

足尾銅山鑛毒加害激甚、土地人民、

三、前多年間憲法ヲ保護シテ受クル能ハズ、

五、此等被害ハ慘憺極シ、爾リテ聞已往今來ノ如ク

憲法ノ保護ヲ行フ請願而シテ、

請願ヲ其憲法ノ保護ヲキ行政府ニ付シ再三其

ノ保護ヲ請願ヲ為シタル下ニ、今ニ至ルニ其保

護ノ方法ヲ為ササルヲ以テ帝國議會ニ向テ其

保護ヲ請願ヲ再三ニ之ルノ真ニ止ヲ得サルニ

、

二、足尾銅山鑛毒ノ加害者人ノ為ニ加害ニシテ我

々鑛毒激甚地ハ十數年前ヨリ所有財産及人

畜衛生權利等ヲ侵害サレシ、

行政府

ハ憲法法律ヲ無視シテ之レカ保護ノ道ヲ立  
テサルコト久矣

二被害土地荒廢ニ至リ年々其産出カラ減シ隨  
テ収獲ヲ減スルニ拘ラズ政府ハ毫モ之レニ  
對スルノ処置ナク土地人民ノ衛生ニ害アル  
モ之ヲ保護スルナク僅カニ土地免租ノ一策  
ニ出テタルノミ然ルニ此事タル素ト天災ニ  
依リテ然ルニアラズ即チ人為ノ加害ナリ人  
為ノ加害ニ政府カ最初ヨリ學理上ノ証明ニ  
依テ知ル処ナリ而カモ政府ノ之ニ對スルノ  
処置盡ク人為ノ加害ヲ等閑ニ附スルニ止マ  
リスニテ且結果免租土地人民ノ公権ヲ奪去  
リ於モ加害ニ加害ヲ重複セシメテアルナ

三被害極メ激甚ナリ地帯ハ河川ノ兩岸堤外

正地及支流附近逆流地及無堤地及堤防ノ破壊  
地又ハ泥渣沈澱ノ底地等アリ然ルニ河川  
附近ハ左来ノ底地ニ納租地價極メテ低  
ク免租処分ノ一事ヲ以テ被害ニ對スル分  
ハ一又價額ニ是厚ク然ルニ免租ノ為メテ  
三ノ被害タル即チ公権ヲ奪ハル且ツ飢渴  
刻下ニ迫リ衛生上又保護ヲ受クハ道ヲ絶  
タニ割テ請願ニ對スル棄余ニ疲シテ如何ト  
モ尤モ難ハサハノ慘状ニ概テ此泥岸僻地ニ  
於ケル窮民等ノ蒙ル所ナリ  
四左ノ如ク多年法律ヲ保護ヲキタリ我々人民

ハ塗炭ノ痛苦ニ堪ユル能ハスニテ人類ノ住  
居スヘキ土地ニアラサルニ及ニテ屢々之ヲ  
中央政府ニ訴ヘントスルハ地方官等權謀術  
教至ラサルヲ常ニ之レヲ遮リ為メニ請願  
ノ時期ニ後ルコト多年令ヤ激甚ナル害毒  
住居ノ四面ヲ浸シ且ツ洪水ノ來ルアラハ又  
子其処ヲ得ス究困切迫ノ余リ之ヲ中央政府  
ニ訴テ人止ヲ得カハニ出シハ兵馬警吏忽  
テ之ヲ遮リテ我々請願ノ通路ヲ妨害スルヲ  
常トマリ

五在来ノ地方官郡衙警吏及無害地ニ住スル町  
村長等ノ無情ナル其多数ハ概テ加害者ノ奴  
隸ニシテ殆ント人類ヲ以テ語ル可カラサル

モハヤホ又中央当局官吏等モ多年法律ヲ無  
視シ人民ヲ輕蔑シ其權利ヲ保護セズ却テ加  
害者ヲ為メニ働キ又職務上ノ權能ヲ利用シ  
テ此慘狀ヲ起シ此極ニ至ラシメタルモ西  
北相侯テ此ノ如キ憲法治下ニ見ルニ力カラカ  
ハ惡事ヲ公然行ハルニ至リタルモリヤリ  
六山林ノ水源ヲ因縁ニシテ之カ保護ハ  
十決シテ忽諸ニ附スヘキモノニアラス然ルニ  
其濫伐ヲ許可シテ山岳ヲ赭突ニ歸シ延テ河  
身ヲ破壊セシメ被害区域ヲテ擴張セシメ  
ツテアハニ令尚樹木ノ濫伐ヲ禁ヤサハルニ如  
八何  
七人民ノ生業ハ多年前前ヨリ中止セラレ其生命

ラ刻マシフ、ア川

ハ被害人民ハ人為加害ノタメ權利名譽ヲ奪ハ

シ衛生ヲ害サレ健康ヲメ損傷シ發育營養ヲ

メ減殺セラレ一方ニハ諸般有益ノ生業ヲ中

止セシメ他方ニハ有害ノ行為ヲ遂行継続セ

テハ

九例ハ一氣被害未タ甚シカラサレ土地ト業

既入為加害ノ為メ帝ニ土地ノ生産力ヲ失ヒ

収獲ト肥料カトヲ損スハノミナラズ併セテ

工業養蚕漁業家畜等ノ収利ヲ奪ハレ刺ハ

耕作労働肥料費ノ増加ト諸請願等ノ冗費ヲ

嵩メ一方ニハ買買上土地ノ價格ヲ下落セシ

メ全村土地ニ對スル實力ト財産トヲ滅失セ

十一七ニシテモリナリ其稍濃厚ノ被害地ニ至リテ

或ハ不毛トナリ或ハ砂漠トナリタルモノ

其土地免租トナスト今時ニハ公権名譽ヲ奪

ク之ヲ奪ハレテ全村ニ減スル土地アリ此等

村々ニハ町村自治ノ制度ヲ適用スル能ハズ

其状況ニ無法律ノ部属ニシテ台湾ノ生蕃ニ

於テハカ如キモノナリ

十現在法律ノ權利名譽財産ヲキリニナラズ猶

將來年々加害ニ深酷ニ至ルハ必然ニシテ現

在昨三十二年ハ三十年比シテ其慘狀ノ大

ニ加ハリタルヲ見ル終ニハ此人為加害ノタ

メ沿岸村ヲ舉テ人類ヲ絶ツニ至ルハミナ

ラ又國家ノ一大要素ヲハ數万町歩ノ土地

即于全國田畑凡五百萬所步之比しテ凡百介ノ一強ニ当ハ面積ノ熟地良田並ニ古來ノ臣民ヲモ日本内地ニ著名ナハ關八州ノ中央ニ於テ併セ失フニ至ルヤ明カナリ然ルニ當局者等ノ之ニ對シテ冷淡ナハリミナラズ甚シキハ國家ノ一部タル或ハ村々ハ目前此人為ノ被毒ノ破滅セラレタリト至ルモ之ニ警戒ヲ加フハ、色ナク全然之ヲ放棄シ地方郡吏ニ村吏ノ瞞着籠絡シテ此激甚ナハ被毒地ヨリ苛酷ニマ村稅募集方ヲ勸誘決行セシメ而シテ外面上被毒ノ簿キヲ裝ハシメテ被毒激甚地ノ慘狀ヲ報告具申ヤス

是レ政府自ラ手ヲ下レテ被毒民ヲ虐待スルニシテ村吏ヲ管掌セシメ其月給ヲ強収セシム十三被毒ノ慘狀ニ延テ東京府下ニ波及シ江戶川下流ノ魚貝ニ直接影響セシメモ拘ハラズ當局官吏ヲ其地ヲ採檢巡視セシメテ其地ニ稀ニテ被毒ノ地ニ復願（明治三十年六月廿七日請願）一 鑛毒被毒土地恢復願、現在ノ被毒地タル栃本群馬埼玉諸縣下ニ於ケル毒地ノ恢復ノニテ入レ尚沿岸毒土流下ノ防止ヲ為サシムカラサハテ以テ將來濃厚トナルニ被毒地則テ渡良瀬利根西川ノ下流地是城十葉東京

江戸川等ノ両河岸ノ加害ヲ豫メ避クハノ西  
義ヲ念ヒモノナリ彼ノ昨年五月廿七日農商  
務大臣ヨリ下シタル豫防命令ハ唯加害者タ  
ハ鑛業人ニ対シ借已地内ニ於ケル諸般ノ大  
工事ヲ為カシメタルノシ其結果ハ外觀上流  
毒防備ノ安全ヲ装ハルノタルニ止マリ已ニ  
ノ加害則チ鑛毒ノ沈澱マハ渡良瀬利根両川  
沿岸一帯ニ流布セハ毒土ノ除却及將來ノ鑛  
毒洪水ニ汎溢スヘキ防備等總テノ豫防工事  
ヲナサシメタルニハアラズ此ノ如ク被害ノ  
土地ヲ恢復スヘキ工事ヲ為カズ且ツ將來ノ  
僻險ヲナスニモ足ラサレハ現政府ハ宜シク  
此際加害者ニ余スルニ左ノ諸工事ヲ果サシ

メ被害地ヲ幾分回復シ免租地ヲシテ租  
地ト為サシメテハ一カラム  
十三 昨年六月九月再度ノ洪水ニテハ鑛毒浸入  
地見分ノ事ハ稲作ノ未タ荒取ラシカハ  
時ニ於テ相願クキ音塵ニ陳情セシメリ  
今日に至ルニ荒々々ハ廣野稲作ヲ荒取ラカ  
ハ慘状ニ墜  
十四 免租継続年願方趣音ハ其継続被害タルニ加  
ヘテ除害方法到底現狀ニ類シ又唯々除害  
ノ極範ニ過キニテ其狀災ニ失明者ニ眼鏡  
ヲ掛ケシメタル地ク何ノ効カレシ有ラシ  
刻下下至凡山岳益々崩壊シ洪水頻繁ニシテ  
河底ノ埋高一年天全ニ達スハハ現在ノ事矣

ニシテ洪水一回ヨカハ毎ニ近年濃厚ノ被害  
地ト化スルハ見易カ已往ノ定歴ナハカ故ニ  
之カ経年免租ヲ請願スルノ止ムヲ得カハニ  
出ル所以ナリ

河身浚深堤防増築新設願

(三十年十月廿日請願  
三十二年九月廿日請願)

十五渡良瀬川河身改修大工事費ニ測量ノ結果凡  
ソ計千三百万圓ノ豫算ナリトハ松方内閣ノ  
時ニ於テ内務大臣ノ調査終了セシメナリ  
然ルニ今春未更ニ再測量ヲセハ見ハニ  
未夕河床毒砂浚深堤防増築等ノ実行ノ着  
手ナラシ見ス而シテ昨三十二年六月九月ノ  
洪水直リ来ハ鑑毒ノ加害ニ之ヲ廿九年ノ洪  
水ニ比シテ幾層甚シキモノアリ且ツ廿九年

三十年度ノ出水ニヨリ河床埋高又幾段ノ多  
キヲ加ヘヨリ其雨量ハ廿九年ニ比シテ多  
ク又出水水量亦夕比較的モカラサハニ係ラ  
又其塔蓋ニ却テ廿九年度ヨリモ二三層敷甚  
ナルモノアリ之レ隘成後山林ノ整理其宜ニ  
テ又得カハカタメナリ今時ニ水源涵養林  
ノ扶殖事業ヲ着意スラシムキヲ以テラシカ  
為シ其請願及陳情ノ止ム時ヲ待テ不拘今ニ  
及シテ尚遊代ヲ差止メサハ事

衛生調査願

(三十年十月一日陳情を工月十四日  
三十二年九月廿日請願)

十二衛生調査願  
明治二十四年以來帝國議會衆  
議院於テ政府ニ對シテ衛生上ノ質問ヲ加ヘ  
タリヨリ茲ニ廿九年然ハニ前内閣ニ至ハ近曾



テ調査ノ報告ナリ然レニ三十年、春農議院  
ノ質問攻撃ニ逢ヒ之ニ答ヘンカ為ノカ三僅  
カニ早醫學博士ヲ派遣セシメ栃木縣足利郡  
役所ニ於テ被害地農民某夫妻ヲ呼出シ郡吏  
立会ノ上左ノ夫妻ヲ裸体トシ大小便ヲ從  
ヒテ其便糞ヲ分析セリト如斯被害民ヲ試驗  
的ニ侮辱セシメトアリシノミニテ未タ一人  
又調査官ノ被害地ニ至リ滯留シテ懇篤ナリ  
試驗ヲ施セシメテ且ツ彼等ハ被害地ノ  
穀菜ヲ忌ミテ之ヲ食マカリシノミナラス  
被害地ノ滯留ヲ怖シ奇怪ノ態度ヲ示シ已ニ  
有害ナル穀菜ヲハコトヲ知テ食マズ其地ニ居  
ル能ハスレテ勿ク其地ヲ逃ケタハニテ保ラ

テ衛生至ニ調査ヲ為シ其然ル所以ヲモル  
ル急ニ被害者ノ甘心ヲ失ハルコトナリ  
ナニ飲食ニ露令ヲ擊キ居ル程ノ憫ニ至極ナ  
ル人民ノ生命ヲ顧ルルハ誠國ハ此等ノ毒地  
ニ草木生質變ニ其僅ニ杉菜ト云フ草ノ  
一種ノ存スルニ其毒極ニ猛毒ト為リ其味ヲ  
失フテ牛馬亦之ヲ食スナリ又鳴呼我等被  
害民不幸如此食物榮養令ノ欠乏ニ至リ  
テ其毒力強テ衣食ヲ害セリ婦女子乳汁  
父之ヲ棄シ乳児養育ノ道ヲ絶タハニ至リ  
馴遊来此毒食ヲ為ラズ政ニキ怪ニキ腸虫ノ

腸内ニ生スルヲ見聞スルニ至レリ

救 助 願

十七日曩ニ請願セシ町村八十余ヶ町村アリ其内敷  
甚ノ毒地ハ凡二十ヶ町村ニシテ又其内ノ十  
七八ヶ町村中現在何入字小字ニ已別シテ何  
字々ト云テ被害ノ厚薄ヲ見ハハシ此等ノ村  
々或ハ大字小字ハ一度毒水浸入スルヤ幾旬  
日減水セズ田畑宅地ニ勿論屋内床上ニ至ル  
迄毒ヲ含メル派瀝ノ沈殿堆積ニ起卧飲食  
ニツテカラ之ヲ欠キ水後ト至ハ蔬菜豆菽麩  
ク腐敗ニ至根莖ノ毒醜ナルヲ食スルヲ得ズ  
鑛毒加害ノ末々未ラサハ十年前ニ於テハ  
洪水ノ際水底ニ枝豆ヲ用ヒ取リ之ヲ煮テ飢

餓ヲ凌クモノ多カリキ冷既往ノ實驗ヲ以テ  
之ハ洪水ノ大概巨テ七八分至リシ時ナル  
ニ近來ハ此枝豆ヲ水底ノ銅臭ニ感じ畏臭  
ハ其味ヲ變テ食スル能ハズ飢餓ニ迫ラハル  
喰フニ食キ有様トナリタハハ洪水ノ内ニ  
鑛毒ヲ含ムニ至リタハヨリ起リ来レハ事矣  
也昨三十二年九月中洪水未タ床ヲ吞ラサハ  
廢屋中ニ妻子老幼ヲ通メテ泣訴ヲナサシカ  
為メ鑛毒激甚ナリ村々ノ人民上京リ途ニ上  
リタルハ斯ル悲境ニ沈淪セシカ為メト知ラ  
ズヤ然ハニ事素ト天災地変ニ生タレテマラ  
ズモテ別ニ人為ノ被害者ヲ救済以テ世人却  
テ天災地変ノ罹災ノ地ヲ救フノ念慮ヲ

起サス又之ヲ救フノ術ヲ講マズ故ニ其害ヤ  
却ツテ彼ノ天災地変ヨリモ慘酷ナハエト幾  
十層ノ上ニ出ツルモノアリ況シヤ政府ハ幸  
ニ之ヲ救ハサハノミナラス却テ軍馬ヲ驅ツ  
テ我々被害民ニ衝突セシメ威嚇抑制ヲ試シ  
シカニ外キ事ニアラズ於テヲヤ是レ率ニ我々  
被害民ヲ殺戮スルニ願意ヲ貫徹セシメサハ  
コトヲ意味スルモノナリ

町村自治破壊ノ町村費國庫補助額

十八町村自治破壊ノ事ハ其未タ全村亡滅ニ至ラ  
サル村々ト至ル一村ノ一半差クハ一部介ハ  
猶將來ニ継続スルキ加害ノ事ニアラテ  
到底一年二年ノ免租ヲ以テ恢復ニ得可キニ

アラズ其已往ニ夫ハ其実力ニ天災地変乃  
至普通洪水ノ如ク無毒ニ至テ一時ノ災害ノ  
意味單純ニ至ルニ直ニ其後因テテ復  
復ニ可シト至ルニ鑑毒被害ニ至テハ極メテ深  
酷複雑ニ至テ且年々永久継続スル惡毒タハ  
テテ

十九其鑑毒稀薄地ノ如キハ固ヨリ因眼ヲ以テ見  
ルニ其害大ニ隨テ容易ニ被害ノ有無ヲ判シ難  
キモノアリ今其後リノ統計ヲ示シテ鑑毒稀  
薄地ノ例ヲ示シテ其初鑑毒ノ加害ノ時ニ在  
テハ既に数年前其收穫迄既歩ニ凡未ニ石  
ヲ得タリシ田地ニ在テ一昨年亦武石昨年亦  
武石ヲ獲タリト云フニ其收穫ノ石數ニ於テ

一始ニト是合ニテノ減損ナク稲作ノ當時ト  
 虫氏青々トシテ茂リ一見恰モ無害地ノ如キ  
 観アリ之レ常入ノ迷フ処アリ然リト幸氏鑛  
 毒水ノ被害ハ三收獲ノ并目ノミヲ以テ標識  
 スヘカラサハルモノナリ  
 左ニ具累計ノ理由ヲ示サシ  
 一田是段歩 現收獲或石 田ノ如シ  
 二藁質ノ損シ依テ肥料カヲ損ス依テ肥料  
 増進ス  
 三末質租悪ノ損害 (量目ヲ減ス)  
 四土地賣買價格ノ下落(地無害所村賣買地  
 價騰貴ノ比例ニヨリ被害地ト幸氏近來  
 一般ノ土地價格ニ伴ハルニ勢アリトス

一 無害地ニ對シテ其比例的差異ヲ生  
 以上ノ如ク既往數十年前ハ天然ノ肥料力充  
 分ニシテ土地肥沃ナリシヲ以テ勤勞少クシ  
 テ或石ヲ得タルモ被害地ノ肥料費ハ年々増  
 加シテ今ハ是段歩五ニ月ヨリ八九回差シク  
 於田ノ多額ヲ要スルニ至リ收獲ノ并目ノ  
 田ノ如クトスルニ且其并目ニ見ハルハ肥  
 料増進ノ損害年々數回同至ハルナリ加フ  
 ハ未質ノ租悪ヲ求メテ市價為メニ減少シ  
 及地價賣買價格ノ無害地ニ伴ハサル等ヲ計  
 二十并々ハ免租ノ金額一阪ニ付金是四五於身内  
 外ヲ以テ到底其半ヲモ償フニ足ラサハル最

モ見易キ計算ナリ

二十又無害地ニ接近セル灌溉用水ノ被害地ノ如キハ洪水ニ伴フ被害ニアラズ自然用水ニ誘シ未ハ鑛毒ナレハ其用水未流ノ田地ニシテ被害稀薄ノ場合ハ其勞働肥料ニ殆ント無害地ト合一ニシテ合一ノ収獲アハモノ、如ク觀奈ヲ下スモノアリ其未復ト土地賣買價格ニ至リテ忽チ多少ノ差異ヲ生ズルモノナラハ以テ無害地ヲ合一ナリト云フ可ラサルハ明カナリ又其米價ニ不良ナリト云フ等ハ未タ無経験家ノ不知不識ノ間之ヲ賣買スルモノナリナキニアラズ然ハハ令天災地變ノ為メニシテ無毒ノ水災タレハ固ヨリ此害ナ

久却テ肥料ノ浸入スルモノアリテ間接ニ土地ヲ益スル程ナク其ハ知ルハ令鑛毒激甚ナル被害ノ事情百般ノ複雑ヲ約モテ言シカ一旦其浸害ヲ被リタル土地ハ鑛毒ノ厚薄ニ拘ラズ其土地自然年ヲ進フテ全面ノ發育ヲ妨テラレ年ヲ進フテ土地瘦々年ヲ進フテ民力衰一智体亦展セサルノ境遇ニ陥ルニシテヤカ或ハ既ニ其境遇ニ赴キタルアリ又ハ其進行ノ途中ニアルアリ可怖可憂ノ次第ナリ彼ノ無経験ニシテ輕薄冷眼ニシテ無慈悲ノ行ハ徒ニ至テハ夏百箱田ノ青キヲ見又ハ収獲ノ作目ヲ聞キテ一様ニ皮想ヲ謀リテ生ニ具稀薄地誌ノ一方ヲ聞キテ濃厚地ノ如何ナ

八 程度損害ノ厚薄間接無形ノ計算ヲモテ之  
 九 被害地ノ指シテ有耶無耶的謾評ヲ全面ニ下  
 七 令ノ稀薄地ヲシテ他日濃厚ノ被害地トナ  
 息其土地ノ保セ失フヲモ之ヲ傍觀マシトス  
 三 以上稀薄ナル土地ニ於テ既ニ然リ況レヤ且  
 稍被害ノ濃厚ナル土地ニ於テ亦尚其甚ニ  
 手者ニ至ラハ表面上肉眼ヲ以テ識別シ得ル  
 五 トノモノ事ニハ其慘状ヲ殆ト筆舌ノ及  
 不トナリ莫ニ人類ノ住居ニ耐ヘサルニ至レリ  
 三 其斯村費被害地々租割ノ欠損ハ勿論之ヲ政  
 府ニ請ルハサハラ得ス

一人ニシテ被害地ト無害地トヲ所有スル  
 一ノコト  
 茲ニ一人アリ田畑山林ヲ所有シ其内ノ一半  
 ハ被害地ニシテ已ニ生産力ヲ失フタル為メ  
 免租トナル残ハ一半ノ無害地ハ普通租税ノ  
 外ニ於テ更ニ此被害地ニ代リテ無害地ノ面  
 積ニ及響スル國家ノ負擔ヲ半シ即チ國民全  
 一ノ負擔トシテ國庫ノ欠損額補充ノ義務ヲ  
 負ハサハラ得ルカ之地方税及町村税等ニ至  
 ルマテ此例ニ依テ被害地納税ノ欠額ヲ補フ  
 タメニ無害地カ加重ノ負擔ヲ為スモノトセ  
 ハ被害地方ノ府縣ニ於テハ無害地ノ人民ハ  
 國民カ重税ノ義務ヲ負ヘルノ外ニ於テ地方

税所村費ニ於テモ尚二重ノ負担ヲ被リ其被  
害所村ノ無害地ハ所村地租割ヲ令セテ更ニ  
三重ノ負担トナル次チナリ是レ國民令一綱  
稅義務ノ外ニ於テ此幾重ノ負担ヲ蒙ラサル  
ヲ得サルニ依リ被害地方府縣郡村無害地人  
民ノ加重負担ヲ拒ムノ当然ナル言ヲ待ク  
サル所ニシテ即チ其地方稅及所村稅ノ欠額  
等ハ之ヲ國庫ノ補助ニ依リテ償ハカルヲ得  
カハナリ

二十二官有地ノ損害ヨリ来ル影響

官有地川河池沼原野ノ被害損耗ハ國家ノ損  
害ニシテ附近人民ノ損害ハ實ニ左ノ如キモ  
ノアリ

才一川河池沼附近ノ漁獵者ハ明治十三年迄  
栃木縣ノニニテモ二千二百餘人アリ去シハ  
群馬埼玉茨城千葉ニ接屬セハ鴉鳥捕獲者ハ  
凡ソ數千名ノ夥シキモノアリシニ今ハ僅ニ  
數百人ニ減シタリ之レ等ハ水脈盡テハ無毒  
ノ枝川ニ附屬スル漁獵者ノミナリ此有毒地  
沼ノ邊等ニ住スル漁獵者ハ絶ヘテ其跡ヲ見  
ズル之レ附近ニ住居スル倉民ノ生業ト農商  
トヲ始メ渾テノ生業ハ早クモ數年前ヨリ衰  
頽又ハ之滅セリ  
戸二此官有地ニ屬スル河川ノ収獲水産ノ多  
量ナル其種類ハ頗ル雜多ナリ此川河池沼  
ハ鴉鳥捕獲者ノ生業トナルノミナラス沿岸

一帯天然ノ肥料ニ田園ノ開拓ヲ促シ其実力  
 ヲ培養ス往古農工商ノ人ニテ蕃殖セシメ  
 所以ニシテ群馬縣ノ相生坂本縣ノ足利西町  
 ノ繁昌寺ハ当初渡良瀬相生兩川ノ水質佳良  
 ト其板流泉沢地況ニ蕃殖セハ魚鳥草木及ヒ  
 天然肥料舟楫等農商漁業牧畜等巨多ノ天産  
 ニ富ムルヲ以テ往古自然ノ村落ヲ爲シテヨ  
 リ今日ノ繁昌ヲ致スニ至リタルハ其一例ニ  
 シテ尚沿岸數十里モ亦皆今一ノ恩恵ヲ受ケ  
 ヲアテリト疑フヘカラサル事実ナリ然ル  
 今一之ニ及シ官有地被害ノタメニ人民ノ  
 所有地ヲ始メ渾テノ財産ヲ殺滅セラシ延井  
 戸漸生ラ害シ生業ヲ賊ハシトスルハ悲憤ニ

至レリ  
 二十四此ノ如キ河川ヲ保護スルハ政府ノ義務ナリ  
 二十五官有地ヲ擧ケテ少数加害者ノ蹂躪スル処ニ  
 任シ其損害ハ農工商及漁獵其他ノ職業ニ至  
 ルマテ幾分ノ生業ヲ撲滅シテ而カモ政府ハ  
 恬トシテ之ヲ顧ミハ処ナシ  
 救助及救済願  
 三土地所有者ノ損害現時金四千金万圓ノ賠償  
 ハ之ヲ司法裁判ニ訴フヘキモノナリトモ改  
 府監督ノ下ニ被害民ハ加害ヲ受ケツ憲法  
 法律ノ保護ナク其被害地ハ憲法ニ律ヲ守リ  
 テ多年間租税ノ義務ヲ尽セシモノナリ即チ  
 已レノ土地ヲ害カレソ法律ノ下國家ノ財



政ヲ充スルノ義務ヲ尽シタルモノナリ  
ナレバ我其年月ノ永キ為メ數年前ヨリ究困文  
之切迫ニテ近年又且夕ノ償還ニ苦シ村落アル  
コトヲヤ加フルニ此等ノ町村ニ既ニ自治ノ  
実カラ失ヒ又自治ノ法律ヲ容ルニ註ハカハ  
至リタハハ被差以爲メ起ル自然ノ結果  
ナルヲ以テ豫メ夫等ノ事情ヲ認メ被害未タ  
近年ノ如ク激甚ニ至ラカハ先テ去ハセ  
四年以來衆議自ラ屢々當路ニ質問ヲ爲シ又  
去二十九年以來幾十回ノ被害民ハ之ヲ行政  
府ニ訴フハ空シク歲月ヲ経過シテ其処分  
実行ヲ見ス昨年四月ニ至リテ町村維一ノ教  
育費及役場費等ノ財源ハ勿論町村基本財産

ヲ失ハ又名譽を損ナレ悉ク之ヲ失フテ遂ニ  
全村亡滅セシマリ又ハ其過半亡滅ニ至ルハ  
其一半差クハ其幾部ヲ亡滅セハモノナリ此  
一事ニ徴スルニ憲法法律ヲ破壊シタルコト  
瞭々火ヲ見ルカ如ク尙今年九月ノ洪水ニ至  
テ更ニ其慘状ノ衰次ヲ甚大ナリシノ事ナ  
ルナリ  
ニテ鑪毒加害ニ年々進加ヒ来リテ我等ノ生命  
ニハ刻々ハ堪ハズ之ヲ中央ノ行政府ニ訴  
テトテ却ヤテテ手取ヲ以テ其道ヲ塞  
カレ威嚇暴横以テ其進行ヲ妨害ヤラシ  
如ク憲法ノ保護法律ノ保護ヲキノミナラス  
法律ハ恰モ加害者ノ左右スル奴隸官吏及悪

村長寺の利益を以て即ち被害の土地人民ヲ  
殺害するの凶器なり法律既にして然らば人民何  
ヲ以て其地に居住し何ヲ以て被害者にして加  
害者にしてスハノ裁判ヲ提起スハノ実カチラシキ  
二十八被害激甚地ノ人民ハ日々血涙ヲ吞み行政  
ニ上テ侮辱ヲ忍び残忍ヲ堪え天下四方ノ  
令腕ニ訴へて止マサルモノナリ此歲月間憲  
法ニ律ヲ保護ヲ蒙ラズ且ク侮辱ト虐待ヲ蒙  
リナカシ祖税ヲ徴収セラルベシトスルハノ此  
ノ如ク保護ナキ政府ニ對シ憲法ノ保護ヲ仰  
クハ殆んど無策ナハカト云ハレ  
陛下ニ憲法ノ保護ヲ仰クハ畏シク奉旨察  
止ムナク此殘忍ナル行政政府ニ向テ即チ憲

法ニ律ノ保護ヲ仰クハ無餘儀此悲シク  
キ境遇ニアルノ状恰も被害ニ訴状ヲ呈スル  
カ如キ感アルハ深ク同胞ノ憐ヲ乞ハサルハ  
カラサル所ナリ  
二十九仰キ願ケル我國政府ノアリトセハ被害地ノ  
毒土ヲ除却シテ前々ノ土地トナシ相當ノ租  
租地ニ復シテ臣民ノ義務ヲ負ハセラルヨク少  
クトスル皇帝陛下ノ臣民タルハ古来ノ日  
本人タル資格ヲ得セシメヨ其鑑毒加害ノ損  
害ニ對シテハ多年間法律ノ保護ナキニ拘  
束ラズ被害地ヨリ納税ニテ法律上ノ義務ヲ尽  
クヤシ國民ノ資格ニ對スル待遇ヲ以テ政府  
ニ救済ヲ請フモノナリ

三十被害民主命ヲ全クスル為メ衛生上一切ノ保  
護相立ニテ様先キ地方廳ヲ經テ請願致差也  
左々各請願ノ要目ニ付其事案ノ一班ヲ奉ケ特  
ニ憲法ニ保護ヲ仰カケトノ願意ヲ陳ヘタルニ  
過キス其案情ニ至テハ決シテ此等マテ申尽シ  
タハニハアヲサハ代前ニハ鑛業主カ營利ノ夕  
ノ設ケニ珍鑛採集益ヲ以テ豫防ノ工事ト唱  
ヘ政府自ラ鑛業主ニ代リ此偽リヲ報告シテ國  
家ヲ欺キ地方ノ縣知事郡吏町村役場自ノ過半  
ニ相結ヒテ加害者ニ加担シ後々ニ地形上完切  
ヲ見ハハカヲサハ山腹ニ人エヲ以テ此ノ害ヲ  
防キ得ハモトト為シ以テ政府責任ノ遁路トナ  
ス此二回ノ工事ハ皆加害者ノ營業ニ屬スル所

有ノ葎械ナリ未ダ此岸ノ毒土ヲ除却スルキ余  
令ヲ發シタルニアヲエ且ツ豫防ヲ為サシカハ  
ノ命令ヲ發シタルニモアラス只營業者ノ所有  
セハ工事ヲ見テ被害地ノタメニ備ヘラレタル  
モノト証ラハ然レトモ可悲被害民ハ之ニ答フ  
ル智識資力ナキヲ以テ之ヲ攻歎手シテ訴ハノ事  
ヲモ為シ克ハサルホトノモノナレハ茲ニハ只  
昨年夏以來被害増進ノ實況ヲ託セシメ一昨  
年來辱ヒ差セシメ諸請願令迄未ダ畧答等ニ時  
々ノ大要ヲ申述置タル之レト御答照被下此  
鑛毒被害地土地人民ニ對シ日本ノ人民カハ我  
々ニ對シ日本憲法々律等ノ保護アツテ少クモ  
臣民ノ道相立ニテ様一昨年來當局諸大臣及帝國

議會ニ再三請願得共何等採用セラレシ廉ナ  
ク特ニ昨年六月九月兩度ノ水害ニハ鑛毒又多  
量ニ汎濫セハテ以テ家屋尚ホ水中ニ没セラシ  
ツ、アハニモ係ラズ被害激甚地ノ究民ハ奉テ  
中央政府ニ訴フル所アリニ爲ノ漸クニテ連  
ニ出シハ警吏軍馬之ヲ遮リ或ハ威嚇ニ殘酷ノ  
行動至ラサハナクテ其請願ヲ爲カシメテ而  
シテ今年ノ鑛粉ハ田畑ニ吹散スル事旧日ニ幾  
倍ニ未穀一切実ラズ藁稈又使用肥料トナシ能  
ハス庭宅皆毒中ニ没マラレテ居住ニ耐ヘサ  
ラシメ且ツ不毛ノ砂漠地ヲ大ニセリ之レヲニ  
十九年ト三十年トニ比シハ其慘狀ハ更ニ致  
層ノ重キヲ致シ深毒地ノ小児ハ頻リニ死セシ

衣倉刻下ニ尽キ金融途絶飢餓ヲ訴フルモノ道  
路ニ徘徊スルニモ不拘地方官之ヲ願ヒ中央  
政府之ヲ救ハズ今ニ及ンテ我等ハ秩序的請願  
ヲ爲スヘキノ餘カナシ政府若シ一片ノ愛情ヲ  
ラハ幸ニ加害者ニ命スルニ田宅ノ毒土ヲ除却  
セシメ且ツ其豫防ヲ加害者ニ嚴命シ損害ヲ償  
ハシメヨ而シテ其実行ヲ督励シ田畑宅地ヲ旧  
ニ復シ細税ノ義務ヲ尽サシメヨ尚鑛毒ニ死セ  
ントスル小児ヲ蘇生セシメヨ蘇生セシムル能  
ハサレハ多年間加害者ニ結托セシ当路ノ官吏  
ヲ調ヘテ之ヲ嚴刑ニ処セラレヨ是レ之ヲ爲ス  
能ハサレハ死セハ小児ノ父母及我々ヲモ軍馬  
ト警吏トニ委シテ父子兄弟ヲ併セ殺戮シテ此

苦痛ヲ脱セシメヨ又シ我ニカ今日ニ及ニテ辨

泣請願ヲ止セ能ハカク所ナリ及任ハカク

左請願仕候也

明治三十二年二月日

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a petition or official document, enclosed in a blue border. The text is written in a cursive style (sōsho) and includes various characters and symbols, including the date '明治三十二年二月日'.

